

# こんにちは 市民病院です

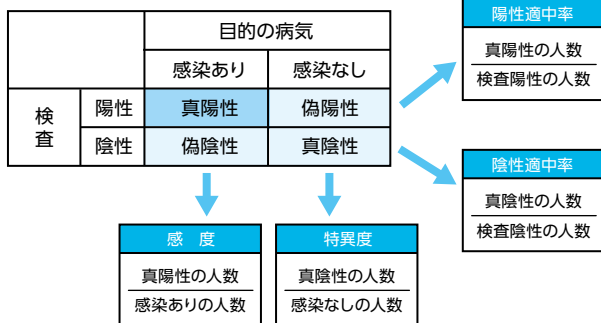
## 新型コロナウイルス検査

新型コロナウイルス感染症の診断は、現在、PCR検査が主流です。陽性者の増加が連日報道されていますが、陰性と判断された方は本当に大丈夫なのでしょうか？新型コロナウイルス検査は、どのくらい正確なのでしょうか？

検査の正確さは、「実際に感染している人」と「検査で陽性になった人」の比較により表されます。しかし、今回の新型コロナウイルス感染症については、「実際の感染」の把握が難しいため、PCR検査がどれほど正しく診断できているかについて正確性の計算がまだできていません。

PCR検査は、ある程度のウイルス量があれば、ほぼ正確に診断できると言えます。しかし、検体の取り方や場所、感染からの経過日数などによっては、採取した検体用検体にウイルスがいない、またはPCR検査で見つけることができないウイルス量だっただけの場合には陰性になる可能性があります。Pでは、抗体検査はどのくらい正確か？

### 検査の感度と特異度



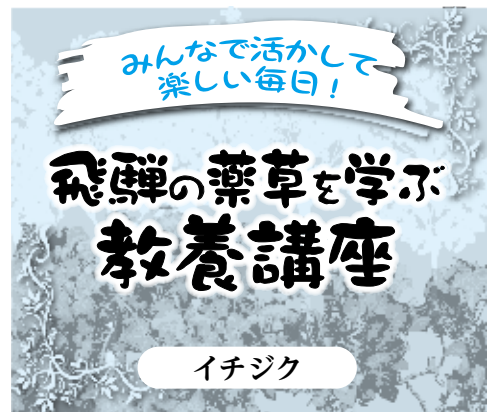
(出典：順天堂大学医学部附属浦安病院臨床検査医学科 三宅一徳医師)

問 飛騨市民病院 ☎ 0578-82-1150

CR検査がウイルスそのものをつかまえる検査なのに対し、抗体検査はウイルスに感染した人の体内で作られた抗体を検出するという点で大きく異なります。抗体検査はその人が過去に感染した痕跡を探る検査で、今感染しているかどうかを調べる検査ではありません。

さまざまな抗体検査が研究用試薬として市場に流通していますが、期待されるような精度が発揮できない可能性もあり、注意が必要です。また偽陽性も多く、現在、日本国内で体外診断用医薬品として承認を得た抗体検査はありません。

感染症には、抗体が陽性になれば「終生免疫」といって二度とかわらないとされているものや、インフルエンザのように毎年ワクチンを接種する必要があるものがあります。抗体検査が陽性だったから新型コロナウイルスに再びかからないと言えるのかまだ不明なのが現状です。



長い梅雨の後はとても厳しい暑さになりましたね。

飛騨では各家庭にエアコンが標準で設置されている訳ではないだけに、近年の飛騨らしからぬ夏の暑さは体にこたえます。

そんな暑い中ですが、我が家の畑では天狗の団扇のような葉のイチジクが大きく成長していました。茎の途中に果実ができて大きくなってきており、成長がとても楽しみです。

イチジクは、ケーキやジャムなどさまざまな食べ物に使われていますが、実は果実も葉も生薬になっているという素晴らしい薬草です。

実は痔疾、便秘、貧血、二日酔いに効果があり、胃を健康にします。生でも乾燥でも同様です。

葉は煎じて飲んだり、風呂に入れたりすると痔疾、神経痛、リウマチ、婦人病、腰痛、冷え性、肌荒れなどの美容、高血圧に効果があります。

これは村上先生が体にいい植物を見分けるポイントとして教えてくださったのですが、茎を折ったときに白い液体

が出るのだそうです。イチジクは茎を折ると白い液がにじみます。

タンポポも茎を折ると白い液が出ますね。逆に黄色い液体が出るものは避けましょう。これは一つの目安にしてください。

イチジクの場合、白い液をイボや痔に塗るとそれらを取ることができのですが、正常な皮膚に塗るとかえって痒くなるという面白い特性があります。

そのため、葉っぱをお茶にしたり、風呂に入れたりする際は生葉ではなく、十分に乾燥してから使用してください。

こんなにたくさん効果も期待できるイチジクはスーパーや地場産施設などで見つけたら積極的に使ってみてください。



村上光太郎 「薬草を食べる」より

問 地域振興課 ☎ 0577-62-8904